

開催地名	福井県 福井市
開催日時	令和7年2月16日(日)9:30～11:00
開催場所	福井県福井市 福井県自治会館 2階多目的ホール
語り部	大内 幸子(宮城県仙台市)
参加者	自主防災組織連絡協議会役員等、嶺北他市町の防災関係者 63名
開催経緯	本市は、終戦直後の福井地震、九頭竜川堤防決壊をはじめ、豪雪や福井豪雨など、これまでにさまざまな災害が発生したが、その都度乗り越えてきた。しかしながら、福井地震の発生から約80年、福井豪雨から約20年が経過しており、その間大きな災害は発生しておらず、被災経験のある住民の減少や防災意識の希薄化、若年層への災害伝承、防災部門への女性の参画が課題となっている。 そのため、今回の東日本大震災の語り部による講演により、自主防災組織リーダー等による効果的で実践的な自主防災活動を推進し、地域防災力を高めることを目的とする。
内容	(1) はじめに ① 自己紹介 私は宮城県仙台市宮城野区福住町に住み、防災活動に取り組んでいます。本日は、これまでの経験をもとに、地域防災の取り組みと「自助・共助」の重要性についてお話ししたいと思います。 ② 宮城県仙台市福住町について 福住町では、地震や津波に備えたハザードマップを作成し、小学校・中学校・高校、さらには災害拠点病院の位置を明記することで、防災意識の向上に努めてきました。 過去の災害を通じて、「自分たちの町は自分たちで守る」という合言葉が生まれ、行政に頼るだけでなく、地域力を活かした防災対策の必要性が認識されるようになりました。2003年には自主防災組織が発足し、まずは住民の名簿作成や要支援者リストの整備から取り組みを開始しました。 さらに、「何をすればよいのか？」という課題に対処するため、災害支援ボランティア活動を実施し、災害時の相互協力協定を締結しました。このような取り組みが「福住町方式」と呼ばれるようになり、現在も試行錯誤を重ねながら進めています。 (2) あの日のこと(台風・豪雨被害、東日本大震災の状況) ① 昭和61年の台風被害 福住町では、昭和61年8月5日の台風災害で、全戸が床上・床下浸水の被害を受けました。この経験から、防災意識が向上し、地域の防災活動が活発化しました。 ② 東日本大震災での被害 2011年3月11日、14時46分に発生した東日本大震災では、福住町の状況が一変しました。近くの小学校周辺では、津波によって流されてきた家屋や瓦礫が堆積し、町全体が壊滅的な被害を受けました。 防災訓練の成果 日頃からの防災訓練が功を奏し、避難所運営はスムーズに開始されました。集会所には110名、小学校には約2,000名の避難者が集まりましたが、訓練を通じて身につけた対応力により、要支援者の安否確認も迅速に行うことができました。 想定外の課題 しかし、名簿の保管場所が損壊し、安否確認用のPCも故障したため、普段できていたことがスムーズにはいかないという現実と直面しました。ライフラインが停止し、多くの人々が厳しい避難生活を余儀なくされました。 避難所での問題点 ・収容人数500人の避難所に、帰宅困難者を含めて2,000人が避難 ・仮設トイレは屋外にあり、高齢者は姿勢を保つことが困難だった ・赤ちゃんを抱えた母親にはミルクがあったが、お湯が不足していた ・避難所運営委員のほとんどが男性であり、女性目線の対応が不足していた この経験から、女性の視点を取り入れた防災活動の必要性を強く感じ、現在の防災活動に繋がる大きなきっかけとなりました。 避難所での卒業式 震災から1週間後には、避難所となった小学校で、地域住民と役員の協力により手作りの卒業式が実施されました。これは、厳しい避難生活の中でも、子どもたちに前向き

	な記憶を残すための大切な取り組みとなりました。 (3) その後のこと ① 東日本大震災から学んだこと 東日本大震災では、公助(行政支援)の限界が明らかになり、自助・共助の取り組みがより重要であることを痛感しました。 また、災害時には女性の視点を取り入れた防災・減災の対策が不可欠であり、避難所の運営方法を改善する必要があると強く感じました。 その後、仙台市では「仙台市地域防災リーダー(SBL)」の養成が始まり、私はその資格を取得しました。地域の町内会長や小中高校の校長と情報を共有し、年2回のバックアップ講座を実施しながら、SBL通信やSBLラジオを活用した情報発信を行っています。 ② 福住町の防災・減災の取り組み 福住町では「自分たちの町は自分たちで守る」をモットーに、防災訓練を毎年実施しています。特に、小中学校と連携した防災教育を進めており、防災街歩きや防火訓練などを授業の一環として取り入れています。 また、夏祭りと連携し、防災訓練を実施することで、若者が参加しやすい環境を整備し、防災意識の向上に努めています。 (4) まとめ 1. 避難所運営マニュアルには女性の参画が必要であり、それぞれの地域に合ったマニュアルを作成することが重要である。 2. 災害時にはまず「自分自身の命を守ること」が最優先であり、逃げ道の確保を忘れない。 3. 防災グッズの準備は必須であり、食料や水、簡易トイレなどを備えておくことが重要。 4. 在宅避難・分散避難の選択肢を考え、事前に備えておく。 5. できるだけ行政に頼らず、地域の力で対応できる防災力を築く。 6. 自分の住む地域の災害リスクを理解し、住民同士のコミュニケーションを深めておく。 7. 子どもと大人、地域と学校が一体となった防災活動を継続することが大切。 8. 人と人とのつながりを大切に、命を守る意識を持つことが防災・減災につながる。 「防災とは、人と人が助け合うこと。今日の学びが、明日の命を守る。」 この意識を胸に、一人ひとりが防災意識を高め、地域全体で災害に備えていくことが求められます。
開催地より	参加者からは、防災における女性参画の重要性をあらためて認識したという意見が多かった。また、女性の参画を促すやり方も大変参考になった。今後も、研修等を通じて、自主防災組織など連携を図りながら地域防災力の向上を図りたい。